

第21回 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構分科会 議事要旨

1. 日時：令和6年7月24日(水) 10:30～15:30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

白坂分科会長、青木委員、田辺委員、中村委員、林田委員

(2) 事務局

風木局長、渡邊審議官、猪俣参事官、吉元参事官補佐

(3) 宇宙航空研究開発機構

石井副理事長、原理事、佐藤理事、瀧口理事、松浦理事、岡田理事、大関部長

4. 議事要旨

(1) 宇宙航空研究開発機構の令和5年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれるにおける業務実績評価について

宇宙航空研究開発機構の令和5年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれるにおける業務実績評価について事務局及びJAXAから資料に基づき説明を行い、質疑応答を行った。主な議論は以下のとおり。(○委員からの質問・意見、●JAXAからの回答)

○自己評価のつけ方について、評価指針に示されている基準のうち、計画比120%以上、かつ質的に顕著な成果という基準に則りS評価としているという理解でよいか。もしくは100%以上、かつ、困難度が「高」である成果という基準を用いているのか。

●JAXAは数値をこなすだけの法人ではないという認識のため、行ってきた業務の質の面で評価することが基本だと考えている。

その後、委員のみで評価の最終審議が行われ、本分科会としての宇宙航空研究開発機構の令和5年度及び第4期中長期目標期間終了時に見込まれる業務実績評価を確定した。

(2) 宇宙航空研究開発機構の見直し内容について

「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の見直し内容(案)」について事務局から説明が行われた。当該説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。

○「中長期目標期間を7年とする」とあるが、計画途中で社会情勢やイノベーションを通じて法人を取り巻く環境や実施すべき取組は変化するので、目標や計画をローリングしていくべきではないか。

○JAXAの見直し内容（案）における「人的資源の拡充」について JAXA 自身の機能・役割を今後も拡大していくという風にも読める。これまでに比して民間企業の役割も大きくなっていく中で、JAXAの研究開発組織を大きくするのか、あるいは、民間の活動を支援していく立場を鮮明にしていくのか、どちらの方向性に向かっていくのかを再定義する良い機会であると考ええる。

○これまでは JAXA の下で研究開発を行うことが今までは当たり前であった。一方で民間が自ら研究開発を行うスタートアップ等が出てきており、宇宙の研究開発を JAXA だけが担うのではないということが鮮明になってきている。このような環境の中で、JAXA の役割を明確にしていかないと、無駄な部分が出てきてしまうと考える。

以 上